

親鸞の肉声が、生きた日本語に移し植えられた。

江戸前・不良少女の舌とリズムが

親鸞の高揚と吐息と体温を伝える。

# たどたどしく声に出して読む 歎異抄

## 伊藤比呂美

歎異抄・正信偈・和讃・書簡の現代、口語訳。

今日を生きる詩人が、自らの語感と文体のすべてを  
かけて翻訳に挑戦しました。念仏や唱名が、風にまじる  
口笛のように、心に沁みとおります。

4月6日刊行 定価1680円(税込) ISBN978-4-906791-00-2

伊藤比呂美

詩人・作家。3児の母、カリフォルニア在住。1955年、東京都生まれ。現代詩のみならず、小説・エッセイなど、旺盛な執筆活動を続ける。『河原荒草』で第36回高見順賞(2006)、『とげ抜き新巢鴨地蔵縁起』で第15回萩原朔太郎賞受賞(2007)。著書『おなかほっぺおしり』(1987)、『日本ノ霊異ナ話』(2004)、『読み解き「般若心経」』(2010)など。



○ ゼロからはじめる歎異抄

一 たどたどしく

声に出して読む歎異抄

現代語訳 歎異抄 前

二 旅のつづき

現代語訳 歎異抄 後

三 旅のつづき

和讃 ひかりのうた

四 旅のつづき

親鸞書簡 前

五 旅のつづき

親鸞書簡 後

六 旅のつづき

和讃 かなしみのうた

七 旅のつづき

恵信尼書簡

八 旅のつづき

和讃 母や子のうた

九 旅のつづき

新訳正信偈 〈むげんのひかり〉さま

十 旅のつづき

和讃 うみのうた

十一 旅のつづき

人類最古の物語の一つが、神話的図像のマンダラの中によみがえった。

くさび形文字の線を基調とする絵が、ラピス・ラズリ色の神秘の海に浮かび上がる。

文は、各年代のギルガメシュ叙事詩を編み直して物語を構成した、原文からの新訳。

# ラピス・ラズリ版 ギルガメシュ王の 物語

## 司修画・月本昭男 訳

4月17日刊行 定価2940円(税込) ISBN978-4-906791-01-9

司修

1936年生まれ。独学で絵を学び、絵画創作にとどまらず、絵本の原画、書籍の装丁、また小説の執筆にと幅広く活躍する。『賢治の手帳』『イーハトーヴォ幻想』(いずれも1996)、『蕪村へのタイムトンネル』(2010)、『司修のえものがたり』(2011)ほかがある。

月本昭男

1948年生まれ。専攻、旧約聖書学・古代オリエント学。現在、立教大学文学部教授。著書：『ギルガメシュ叙事詩』(編訳、1996)、『古代メソポタミアの神話と儀礼』(2010)、『水墨 創世記』(2011)ほかがある。



ぷねうま舎

数のふしぎな世界へと、歌にのせてナビゲート。整数論の鬼才が奏でるのは、この世界のきらめく謎と、なつかしい愛の歌——素数の歌は「とんからりん」。

# 素数の歌が聞こえる

## 加藤和也

数論の最前線に立って、数々の難問に挑戦してきた著者が、その冒険の魅惑をイメージ豊かに語ります。

日本の昔話や短歌の調べにのせて伝える「数のふしぎ」、それは人と世界のくめどもつきない神秘それ自体です。自伝的研究日録。

6月中旬刊行予定 予価1890円(税込) ISBN978-4-906791-02-6

加藤和也

1952年、和歌山県生まれ、整数論における世界のリーダーの一人。東京大学理学部教授、京都大学理学部教授を経て、現在、シカゴ大学教授。2005年には、整数論・数論幾何学の研究に対して、日本学士院賞が贈られている。著書：『解決! フェルマーの最終定理 現代数論の軌跡』(1995) ほか。

〈素数の歌〉

素数の歌はとんからりん  
とんからりんりんらりるれり  
耳を澄ませば聞こえます  
楽しい歌が聞こえます

はじめに 数のおもしろさ  
序章 無限遠点は遠い

## I 素数の歌

第1章 宇宙が先か素数が先か  
第2章 素数の歌は愛の歌

## II 類体論の魅惑

第3章 心高ぶるゼータのふしぎ  
——岩澤理論の拡張について  
第4章 イdeal類群の喜び

信仰と理性の全重量をかけたイエス論。  
死をひかえた、イエスの最後の沈黙——。  
ここにこそ、イエスのすべてが折り畳まれている。  
あらゆる言葉と悲惨は崩れ落ち、  
栄光のきわみがそこに立ち上がる。

# 最後のイエス

## 佐藤 研

次第に変貌をとげていくイエスの足跡を、テキストの正確な読みを基礎として再現します。信とは、怒りとは、親とは、女性とは、イエスにとって何だったのか、その折々の表情と身振りを描きとったイエス論集。

6月中旬刊行予定 予価2415円(税込) ISBN978-4-906791-03-3

佐藤 研

1948年生まれ。専攻、新約聖書学、現在、立教大学文学部教授、1995年から96年にかけて、新約聖書全5冊(岩波書店)の編集・校閲を担当した。著訳書：『マルコによる福音書、マタイによる福音書』新約聖書I、『ルカ文書』新約聖書II(1995)、『悲劇と福音——原始キリスト教における悲劇的なもの』(2001)、『禅キリスト教の誕生』(2007)、『はじまりのキリスト教』(2010) など。



エディルベルト・メリタ作

序章 イエスの〈負い目〉

## I 人間としてのイエス

第1章 イエスにおける人間の尊厳と深淵  
第2章 詩人イエス——その言語の特徴について  
第3章 預言者としてのイエス

## II 変貌するイエス

第4章 真に人、真に神——カルケドン信条考  
第5章 新約聖書における「危機」  
——イエスとパウロの場合

## III 最後のイエス

第6章 聖書学は〈イエス批判〉に向かうか  
——「宗教批判の諸相」に寄せて  
第7章 宗教史学派のイエス像  
終章 イエスの沈黙

ぶねうま舎